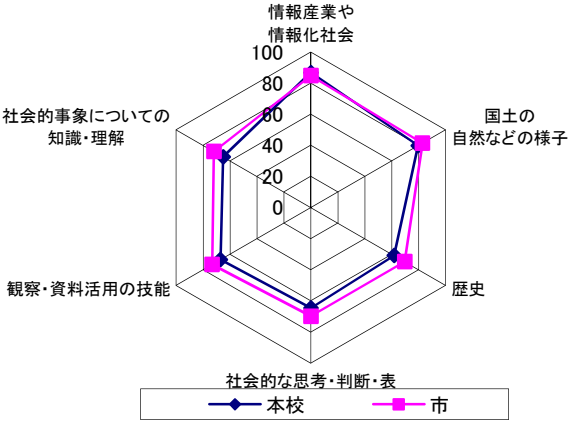


宇都宮市立新田小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	情報産業や情報化社会	86.7	84.7
	国土の自然などの様子	79.5	82.7
	歴史	61.8	69.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	64.6	69.9
	観察・資料活用・技能	67.1	73.3
	社会的な事象についての知識・理解	65.1	71.9



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
情報産業や情報化社会	・宇都宮市の平均正答率と比べ、2%上回った。設問ごとの比較では、「メディアの種類とその特色」の正答率が、市の平均を2.6%下回ったが、「情報ネットワークの考察」については市の平均を5%、「ホームページを作成する際の注意すべき内容」については市の平均を3.5%それぞれ上回っており、概ね満足できる状況であった。	・「メディアの種類とその特色」については、児童はテレビやインターネット等の情報媒体は身近であるが、新聞はあまり関心がないようである。今後は、新聞を学習に積極的に取り入れるなどして、新聞の利便性を再認識させるようにしていきたい。また、情報化社会に生きる中で、情報モラルは重要である。本年度は道徳で「ネット安全教室」を実施したが、今後も道徳や学級活動に位置付けて確実に指導していきたい。
国土の自然などの様子	・宇都宮市の平均正答率と比べ3.2%下回った。設問ごとの比較では、「林業の現状」の正答率が、市の平均を5%下回った。また、「環境を守る取り組み」は市の平均を1.3%下回った。	・資料を読みとる問題は、資料の与え方を工夫し、多面的な見方や考え方で問題の本質をとらえる能力の育成を図るようにしたい。また、この単元は5年生で学習した内容であるが、今後も環境問題については日本や世界の現状を取り上げて、復習できる時間を確保したい。
歴史	・正答率が市の平均を7.7%下回った。設問ごとの比較では、「古墳」や「寺子屋」の設問では市の平均を上回ったが、その他の設問は市の正答率を下回った。活用力をみる問題が数問出題されていたが、資料に示されている情報を読み解き、自分の判断を解答する問題に苦手意識をもつ児童がいた。	・歴史分野は、各設問間の正答率にも大きなばらつきが見られた。したがって、まずは各時代の歴史的な事象のつながりや、歴史上人物の業績の内容など、基礎・基本となる知識をしっかりと定着させる指導に重点をおきたい。そのためには、まとめの時間に社会科ワークを使った、歴史新聞を作成したり、インターネットなどのメディアを利用したりと、さまざまな方法で定着を図りたい。